

## 輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部  
購買推進課

### 北米コンテナ船情勢 西海岸港湾の混雑悪化・回復の見込み薄く

前月号でも記載した通り、現地時間 2015 年 1 月 5 日より北米西岸港湾労組（ILWU :International Longshore and warehouse Union）と使用者団体（PMA : Pacific Marine Association 船会社やターミナル運営者で構成される）との労働協約改定交渉が再開されております。

ILWU 側は依然としてスローワーク（怠業戦略）により作業効率を落とすことで交渉を優位に進めようと画策しており、オークランド港、ロサンゼルス/ロングビーチ港では本船スケジュールの遅延が多く発生しています。最新の情報ではロサンゼルス/ロングビーチ港で20隻近くが沖で滞船しており、スケジュールの遅れは最大で4週間程度、オークランド港で5隻程度、シアトル/タコマ港でも5隻前後の本船が滞船しており最大で5-6週間の遅れとなっています。現在特にオークランド港での運航スケジュールの乱れが深刻化しており、ロサンゼルス、オークランド、日本をつなぐ一部の航路のオークランド抜港を各船会社が決定しました。



ロサンゼルス/ロングビーチ港での滞貨状況

その後、1月の半ば頃に労使交渉の大きな争点の一つであったシャーシの保守・点検作業についての仮合意がなされ、交渉は一步進展しました。

さらには、2月4日にPMA側より大幅に譲歩した最終提案とも取れる内容がILW

U側に投げかけられ、ILWUの回答を待っている状況です。

引き続き、今後の状況を注意深く追っていく必要があります。

加えて、現在発生している北米西海岸港の混雑はコンテナ船の大型化やシャーシ不足、鉄道輸送能力の不足、非効率的な運営システムなど、労使交渉とは別の現在の構造的な問題に起因する部分も多く、労使交渉終了後も当分の間は混乱が続くと考えられています。

また、現在日本国内で供給されている玉の多くは昨年末および年明けに入船したものが中心となっており、西海岸全域で船積みの遅延が顕著になってきた年明け以降に産地を出航した玉は以前より格段に少なくなっており、日本国内への供給力への影響が本格化するのは今月以降という見方もあります。

## 海上運賃動向

2月1日付で発表されていたGR I (General Rate Increase : 基礎運賃値上げ) はほとんどの船会社から3月以降に延期するとの声明がでています。

## ビートパルプ

### 1. 米国産

製糖作業は順調に行われているようです。地域差はあるものの、多くは2月から4月後半まで行われる見込みとなっております。

また、間もなくUSDA (米国農務省) の作付予想が発表される見込みです。新穀の作付けは、アイダホやミシガンなどの早い地域で例年3月末から4月上旬にかけて、日本向けの主力となっているミネソタ、ノースダコタでは4月10日前後から作付けが行われる見込みとなっております。世界の砂糖市況は引き続き低迷しているものの、米国の砂糖大根の作付面積に大きな変動をもたらす要因は少なく、平年並みの作付けが行われると予測されています。

### 2. 中国産

近年中国における酪農畜産業は急激に成長しており、飼料需要が大幅に増加しています。2013年後半より、中国産ビートパルプも旺盛な内需に向けられはじめ、日本及び韓国向けに輸出する余裕がなくなっています。

過去5年間の日本及び韓国の中国産ビートの合計輸入数量は、

2010年：83,707トン

2011年：141,163トン

2012年：137,082トン

2013年：96,383トン

2014年：10,354トン

以上の通りとなっており、2014年については大幅な減少を見せております。

輸入量の日韓比率につきましても2014年は日本：韓国=1,245トン：9,109トン、となっています。

## アルファルファ

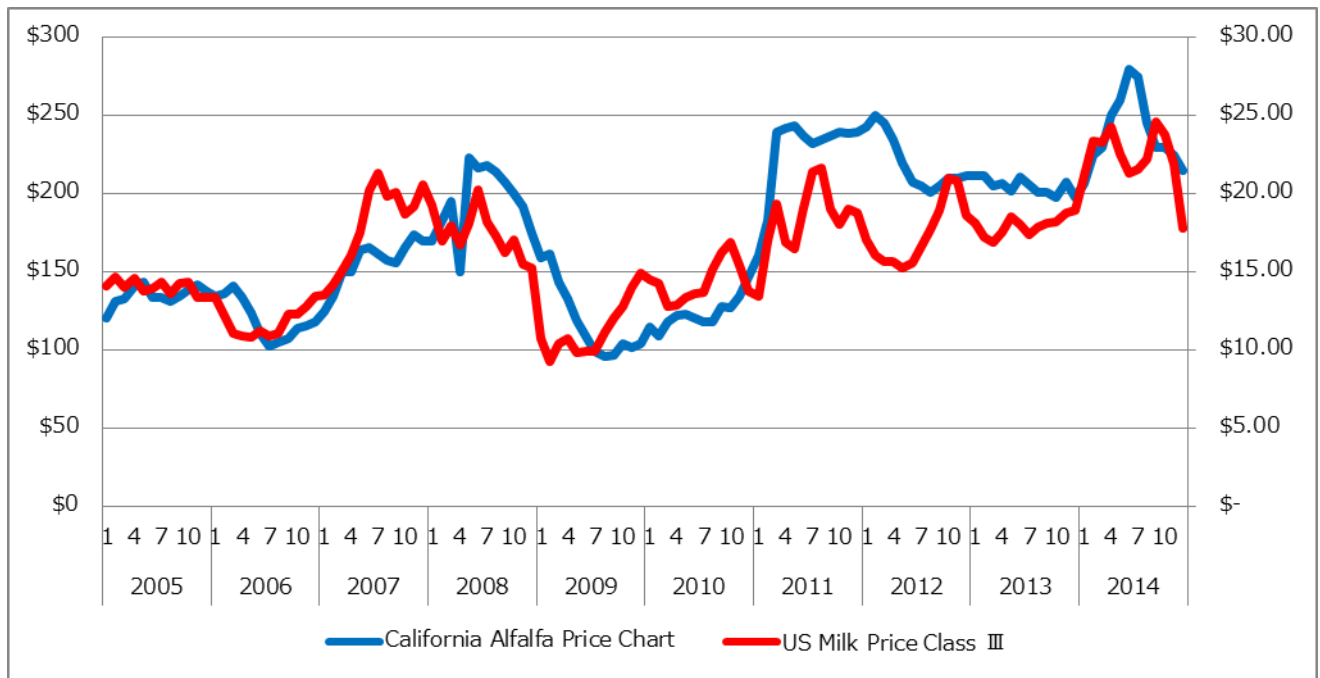
日本における北米産アルファルファの年間輸入数量は年々減少傾向にありますが、40万トンを超えることはありませんでした。ところが、2014年はついに40万トンを下回り、39万1174トンという結果となりました。

輸入量減少の要因は北米西岸の労使交渉から来るデリバリーの乱れや産地価格の高騰及び円安の進行による需要減退、中国や中東諸国の台頭、日本の酪農家戸数の減少など多岐に渡ります。拡大する乾牧草市場の中で、日本向けについて引き続き良品で競争力のある価格のアルファルファをいかに買付け、供給していくかは今後の大きな課題になりそうです。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	
アルファ	2005年	39,520	34,345	41,414	40,350	44,592	39,245	34,867	34,673	35,761	40,378	39,831	41,995	466,971
	2006年	39,115	35,987	40,425	36,776	42,665	35,969	33,432	35,466	33,387	43,647	39,864	40,235	456,968
	2007年	33,087	33,833	36,045	38,173	43,321	36,659	34,245	31,443	28,296	34,645	36,575	35,856	422,178
	2008年	35,574	38,668	36,898	41,709	37,274	35,796	43,996	43,686	37,462	31,124	24,010	23,092	429,289
	2009年	22,306	31,608	38,482	41,168	36,814	38,316	34,311	31,092	29,288	41,309	45,031	45,437	435,162
	2010年	39,015	33,657	38,582	41,563	43,990	47,104	35,493	32,829	30,308	34,035	38,453	39,130	454,159
	2011年	38,701	37,709	44,128	35,882	40,071	35,433	32,127	34,681	35,946	36,019	40,328	39,698	450,723
	2012年	34,770	34,755	35,583	36,675	41,160	36,986	32,826	32,741	29,744	36,599	37,109	38,066	427,014
	2013年	36,344	36,569	36,175	37,469	38,873	32,147	33,457	29,756	30,017	35,359	34,609	38,906	419,681
	2014年	37,886	32,597	36,825	33,241	34,709	32,449	38,030	33,130	30,482	30,868	23,235	27,722	391,174

※北米産アルファルファ輸入数量 2005年～2014年

15年産に向けて明るい材料としては、軟化しつつある米国乳価に比例する形でアルファルファの産地価格も下げの傾向を見せている点です。下記は米国乳価クラスⅢとカリフォルニア州におけるアルファルファ価格の相関図ですが、2014円前半から中盤にかけて最高値を記録したものの、同年後半にかけて急速に軟化を見せております。過去からみれば未だに高いレベルで推移しているのは間違いありませんが、現在は港湾混雑により出荷がスローになっていることから産地には在庫が滞留しており、15年産が開始されればサプライヤーや生産農家の保管スペースの問題などにも繋がることから、15年産開始前にさらなる値直しが起こる可能性があります。しかしながら価格が軟化すれば安値志向のUAEなどの他国から巨大な需要が戻ってくることも想定され、引き続き注視していく必要があります。



※米国乳価クラスⅢ（赤）とカリフォルニア州アルファルファ平均価格（青）の相関

## チモシー

### <米国産>

作柄に恵まれた14年産は13年産に比べて価格は軟化したものの、世界的な需要増加を背景に、依然として高値で推移しております。一方で高値を理由に日本向けの出荷は芳しくなく、昨年秋には販売価格を一部値下げし、出荷状況の回復を図るサプライヤーもいました。しかしながら前述した労使交渉のもつれから、出荷は更にスローになっております。このような背景から特に酪農用プレミアム以下の在庫は比較的余裕があると言われております。

### <カナダ産>

14年産はレスブリッジ（灌漑地域）、クレモナ（非灌漑地域）とも天候の影響を強く受け、大部分がミドルグレード若しくはローグレードとなっており、プレミアム品の発生は僅かとなりました。

チモシーの競合作物である小麦や大麦、菜種の価格が芳しくないことから、15年産チモシーの作付けは概ね前年並みになると予想されております。

また、バンクーバー港を擁するブリティッシュ・コロンビア州では州政府とトラック組合との間で、料金変更や車両年齢制限の新ルールに関する交渉が続いております。交渉項目は14項目あると言われており、妥結しなければ2月1日に組合側がストライキを行う可能性も示唆されておりましたが、1月15日に行われた会合で12項目が

合意されたことからストライキは回避されました。しかしながら残る2項目については引き続き交渉が続けられており、これが長引けば組合側がストライキに及び可能性も考えられます。

カナダ産チモシーの出荷の主要港であるバンクーバー港もILWUによるスローワークの影響で、航路によっては大幅なスケジュール遅延が発生しています。

## スーダングラス

<インペリアルバレー産>

1月15日付けのエーカレッジレポートによれば、相場価格が堅調なデュラム小麦の作付面積は前年同月比223%増の40,158エーカーとなっており、いわゆる早撒きスーダンへの影響が心配されます。実際にスーダングラスの作付面積は前年同月比96%減の337エーカーと現時点では低迷しており、播種が本格化する今後の進捗が注目されます。また、現地での未契約在庫は非常に少ない状況です。

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

14年産のスタート当初から日本、韓国の引き合いが堅調であったため、良品については生産農家の倉庫にも在庫は殆どない状況です。他草種に比べて価格的に競争力があることから、2014年ではついに年間輸入量が7万トンを突破しており、日本での需要の伸びを見ることができます。

1月15日付けのエーカレッジレポートによれば、クレインの作付面積は昨年同月比9%減の15,691エーカーとなっており、価格への影響が心配されます。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
クレイン	2005年	4,689	4,014	5,239	4,285	7,152	5,773	3,611	5,300	4,172	5,887	5,252	5,572	60,946
	2006年	6,062	4,646	6,212	3,660	3,629	7,027	6,435	5,472	4,029	4,885	5,769	4,616	62,442
	2007年	5,110	4,642	4,276	5,226	5,837	5,016	2,980	4,082	3,414	4,075	4,309	4,428	53,395
	2008年	3,596	3,851	4,773	4,841	4,727	5,325	4,192	5,062	5,816	5,553	4,342	3,292	55,370
	2009年	2,972	2,717	4,305	4,670	3,909	3,941	4,240	3,931	3,253	3,667	4,734	5,847	48,186
	2010年	5,001	4,472	6,788	6,460	6,282	5,870	5,151	4,913	4,503	5,055	5,341	5,787	65,623
	2011年	4,962	5,588	5,331	5,141	4,947	6,259	4,646	7,647	5,546	5,883	5,456	4,819	66,225
	2012年	5,145	5,388	6,398	5,453	7,320	5,900	6,306	5,386	5,033	5,688	5,634	5,006	68,656
	2013年	6,177	5,836	6,034	5,726	5,016	5,961	5,418	4,704	5,398	6,078	4,851	6,870	68,069
	2014年	6,411	7,190	4,828	5,976	6,612	6,517	6,489	4,842	6,197	6,803	4,631	6,898	73,394

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

ストローの収穫は既に終了しています。ライグラス及びフェスクのどちらも深刻な雨当たり被害が発生しており、良品の供給余力は極僅かとなっております。そこに追い打ちをかけるように港湾の状況が悪化しており難しい局面が続いています。

## 豪州産オーツヘイ

14年産の収穫は西・南・東の3州全てで既に終了しています。

西豪州は雨当たりが多く、大半がローグレード品となりましたが、競争力のある価格を設定したサプライヤーの出荷は中国向けを中心に順調なようです。

南豪州は総じて見た目が青い良品が多い傾向でハイグレード中心の作柄になりました。

東豪州は一部干ばつのストレスで見た目は茶色気味のものが多いですが高い分析値のものも出てきているようで、南豪州同様、ハイグレードが多い作柄となりました。

各産地ともに、北米の港湾混雑の影響により豪州産品への需要が増加しており、1～2ヶ月先まで工場のプレススケジュールが埋まりつつあります。この状況は北米のデリバリーの乱れが解消されるまで続くと思われれます。また、米ドルに対して豪ドル安が続いていることから、今後の価格動向が注目されます。

以 上